

肉用種雄牛の検定 新しい基幹種雄牛「奥北茂」, 「糸昭」

畜産試験場

1 取り上げた理由

優れた遺伝能力を有する黒毛和種種雄牛を造成し、宮城県産肉用牛の改良を促進するため、肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定を実施した。その結果、宮城県肉用牛改良委員会で「奥北茂」と「糸昭」が、宮城県基幹種雄牛として認定され、平成15年4月から供用が開始されるので、その特性と交配指針を普及情報とする。

2 普及情報

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛 「奥北茂」, 「糸昭」

2) 特性等

a 生年月日, 産地, 血統, 特性(優点・欠点)

名号	生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	優 点	欠 点
奥北茂	H8. 8.14	米山町	奥 茂	糸 光	第7系桜	発育, 資質, 尻	体 深 , 腿
糸 昭	H9. 1.27	桃生町	第2波茂	奥 茂	糸 光	発 育 , 前 軀	尻, やや体上線

b 和牛産肉能力間接検定及びフィールド検定成績

名号	間 接 検 定					フ ィ ー ル ド 検 定			
	検定 頭数	1日平均 増 体 重	枝肉 重 量	ロ-ス芯 面 積	脂肪 交 雑	検定 頭数	枝肉 重 量	ロ-ス芯 面 積	脂肪 交 雑
奥北茂	10	0.88kg/day	323kg	44cm ²	3.3	12	386kg	55cm ²	2.2
糸 昭	9	0.96kg/day	347kg	45cm ²	2.5	12	370kg	53cm ²	1.6
全 国	65トット	0.93kg/day	357kg	47cm ²	2.6	(平成13年度終了間検平均)			

3 利活用の留意点

- 1) 奥北茂産子の調査では、資質、体上線、体深に優れていたが、前背幅や後軀の充実に欠けるものがみられた。糸昭産子の調査では、資質、体積に優れていたが、後軀特に腿の充実に欠ける傾向があった。交配にあたっては、それぞれ優れた点を改良目標とし、欠点を補える繁殖雌牛を選択することが望ましい。
- 2) 産子の肥育枝肉成績では、奥北茂は間接検定・フィールド検定ともに肉質、特に脂肪交雑で優れており肉質の改良に有効であるが、やや枝肉重量が不足しているため枝肉重量の遺伝的能力の高い雌牛への交配が望ましい。糸昭は、肉質の面では全国平均並みであるが、間接検定の1日平均増体重は本県の間接検定で最も高い成績であったことから増体への改良が期待できる。
- 3) 予想産子の近交係数は、10%以下となる交配が望ましい。奥北茂は奥茂、糸昭は第2波茂、茂重波、奥茂が父牛の繁殖雌牛への交配は避けるべきである
- 4) 奥北茂及び糸昭の凍結精液は、平成15年4月から配布する。

(問い合わせ先：畜産試験場 酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

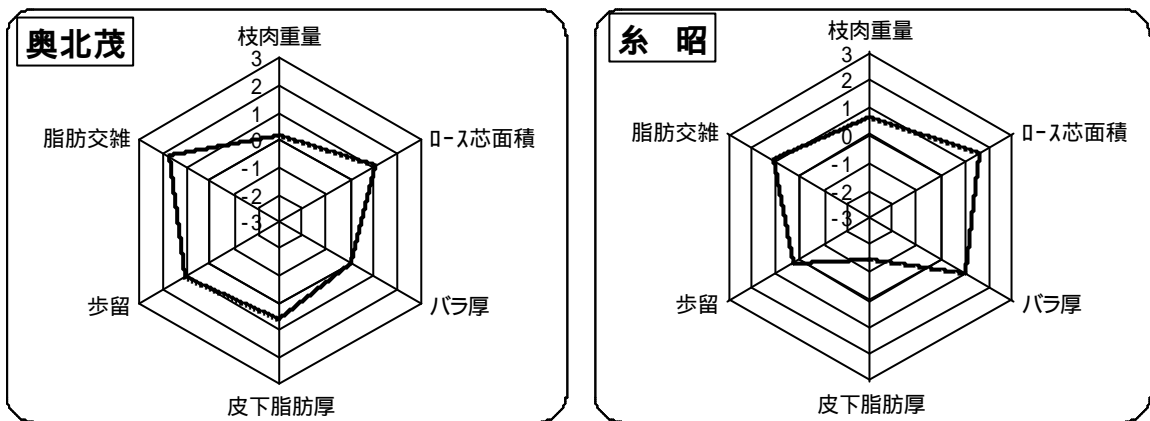
肉用種雄牛の検定 昭和55～

2) 参考データ

a 和牛産肉能力直接検定成績

名号	1日平均 増体重	365日 補正体重	TDN 要求率	粗飼料 摂取率
奥北茂	1.20kg/day	430.0kg	4.47	32%
糸昭	1.45kg/day	468.8kg	3.45	33%

b 「奥北茂」及び「糸昭」の期待育種価



平成14年3月分析 宮城県和牛育種価報告より算出
目盛り0が県内繁殖雌牛の平均値，3～-3は 単位。

c 「奥北茂」及び「糸昭」を交配した場合の産子の予想近交係数

交配予定 雌牛の父	奥北茂	糸昭
	予想産子近交係数	予想産子近交係数
茂重波	9.9%以上	12.9%以上
秋重	4.9 "	6.6 "
南波竹	4.9 "	6.7 "
宮滝	0.0 "	0.9 "
茂糸波	6.5 "	6.9 "
第2波茂	4.9 "	14.9 "
安谷	2.1 "	2.0 "
奥茂	14.3 "	12.0 "
茂勝	7.4 "	9.7 "
宮福茂	5.9 "	7.4 "
茂糸桜	5.7 "	4.0 "
繁奥	9.4 "	8.2 "

3) 発表論文等

なし